

令和7年度半田市6次産業化農業者支援プロジェクトリーダー評価委員会 要旨録

開催日時	令和8年2月6日（金）10時00分～11時30分
開催場所	半田市役所4階 庁議室
会議次第	1. 挨拶 2. 活動報告 3. 評価委員からの質疑応答 4. 評価結果発表、意見交換
評価委員	愛知県知多農林水産事務所農政課長 高須義成、半田市副市長 山本卓美、半田市企画部長 大木康敬、半田市市民経済部長 大山仁志
その他出席者	（オブザーバー）半田市長 久世孝宏
次第	議事要旨
【挨拶】	（市長） 本プロジェクトリーダーは、民間人材の活用による市政の発展と、公約で掲げる一次産業である農業の活性化を図るために新設したポスト。私の目から見てもこれまでしっかり活動していただいていると思うが、年に一度の活動状況の振り返りにより、さらにより良い活動につなげていただきたい。委員の皆さんには、忌憚のないご意見・ご質問等をお願いしたい。
【活動報告】	（プロジェクトリーダー） 令和7年度半田市6次産業化農業者支援に関する取り組み状況について、以下の項目を順に説明 ・本プロジェクトの出発点とこれまでの仮設 ・交流と行政ファシリテーションを基盤とした農業環境づくり ・令和7年度における事実行為と計画進行の確認 ・農業コミュニティ活動の定番化と質的变化 ・にこもぐ宣言に見る、自治意識と内省の深化 ・次世代との接続に見る、コミュニティの開放性と波及 ・交流から実践へ ― 事業構想が立ち上がる段階 ・注視すべき課題と次の視点 ・半田市農業全体の価値発信と、次のステージ
【活動報告への質疑・意見交換】	（企画部長） ・この3年間の取り組みの結果、農家所得が上がった事例はあるか。
	（プロジェクトリーダー） ・この3年間で赤字から黒字に転換した農業者が出るなど、所得は明らかに上がっている。本プロジェクトが無ければ続かなかったという事業者もいる。ただし、花関係へはこれからの課題。
	（企画部長） ・プロジェクトリーダーとのかかわりの中で、この3年間で担当職員にどのような行動変容が見られたか。

<p>(プロジェクトリーダー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートのとりまとめを職員に依頼したところ、単なる集計にとどまらず、にこもぐ通信として周知してくれた。産業課内の別の担当者も含めて話し合う雰囲気醸成された。ファシリティ能力もパワーアップした。
<p>(企画部長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R8.4月の機構改革で産業課農務担当が農政課という単独の課となるが、プロジェクトリーダーとしてどのようなアプローチを考えているか。
<p>(プロジェクトリーダー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商工関係者との連携は益々重要になってくる。現時点において、生産に関わる支援をしている自治体は多くあるが、マーケティングなど販売にかかわる独自の支援や、農業関係者のコミュニティ形成のための支援を行っている自治体は、県内では半田市のみ。観光との連携も今後十分期待できると思っている。
<p>(県農政課長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「にこもぐ」により農家の経営力があがったとのことだが、「にこもぐ」はどのような刺激や影響を与えたのか。
<p>(プロジェクトリーダー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に小さな農家同士のつながりがなかった中で、お互いに素直に話が聞ける場ができた。情報交換、コミュニティの場ができた。
<p>(県農政課長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな農家への働きかけは今後どのように考えているか。
<p>(プロジェクトリーダー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畜産は半田市の特徴であるが、地域とどのようにかかわりを持っていくかが課題。研修会のテーマも、小さな農家用のテーマから、大きな農家も参加したくなるようなテーマやコンテンツを投げかけていかなければならないと思っている。
<p>(県農政課長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・六次産業化・地産地消費に基づく総合化事業計画が認定された成果を今後どう生かしていくか。
<p>(プロジェクトリーダー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の事業者の目標となれるといい。経営の数字を見られることは強み。周囲の見方も変わるし、自分の事業の形や売り方も変わってくる。売ることが楽しくなると生産にも力が入ってくる。半田市には、六次産業化・地産地消費に基づく総合化事業計画が認定された農家がいるということもうまく伝えながら、個別相談を積極的に引き受けていく。
<p>(市民経済部長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やりたかったが、なかなかうまく進まなかった事業はあるか。
<p>(プロジェクトリーダー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特にない。掲げたことは全部できた。まさかこの速さでできるとは思わなかった。あえて言えば、大型農業事業者である花きや畜産農家と連携をとることができず、今後の課題となったところ。また、農家も地域に出て、農業が市民とどうかかわっているかをもっと知ってもらうことも必要。「にこもぐ」を知らない市内の農家もいる。

	<p>(市民経済部長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅構想に対してどのようにかかわりが持てるか。
	<p>(プロジェクトリーダー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分はこれまで、道の駅や産直に関する調査業務にかかわった経験があり、データベースも持っている。商工や農協との連携が必要で、しかも新しい価値軸で動かしていかないとなかなか難しいと思っており、その新しい価値軸を受け入れてくれる環境があるのかを、今は懸念している。箱を作ってそこにすぐ事業者を埋めるのではなく、地域全体で、勝てるチームで多くの人々がかかわることが重要。具体的に健全に動かしていくために、いろいろな協力はできると思う。
	<p>(副市長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動回数についての妥当性について、自身の評価は。
	<p>(プロジェクトリーダー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所に来る日や他に用務がある日でも、朝早くや、夜遅く、自分の時間を使って任務を行うこともあるが、ほぼ適正であったと思う。来年度機構改革で人事異動があることを考えると、もう少し踏み込まないといけないと思う。ある程度出来上がった中に、新しく入ってきた職員に対し、コミュニケーションフォローをしていかなければならない。
	<p>(副市長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「にこもぐ」に市外農家が参加していた。半田市の税金を使って市外業者を入れることへの考え方について説明してほしい。
	<p>(プロジェクトリーダー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家同士がつながって自律的に勉強していく機会はとても大事。「にこもぐ」により、他地区の人とつながり、他地区のことを知るのはとても良いこと。他地区の自治体や農家は今、半田市の取り組みに大変注目している。広域のコラボも動き出している。投入した予算に対して、対価としてのリターンは圧倒的に勝っている。今注目されている半田市と一緒にやりたいという農家がどんどん半田に来て、それが半田市の農業行政の価値を高めている。外部の力をうまく活用しながら、半田市の農家たちを成長させ、農家所得を上げていくこと、これはすごく確実性のある、ストーリー性のある戦略だと思っている。
	<p>(プロジェクトリーダー退室)</p>
	<p>(企画部長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常にアクティブに活動しており、職員への波及効果もある。半田市において、農業自体が主要産業かということ必ずしもそうではない中で、まだまだ課題もあるので、引き続きプロジェクトリーダーの力を借りてどんどん進めていくべきと考える。
	<p>(市民経済部長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目指している状態をほぼ達成している。今後も協力していただきたい。
	<p>(高須委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この地域は、個の農家が多い中、ある程度まとまりを持った組織が必要。いろんな農家と交流し、さらに地域のことも考えていただけることで、行政ともつながりやすい。プロジェクトリーダーの熱意が産業課職員のモチベーションアップにつながっている。

	<p>(副市長)</p> <ul style="list-style-type: none">・市内農家の価値向上について、数値的なものがなく、感覚的だった点で、やや成果が見えにくかった。
【評価結果発表】	<p>(副市長)</p> <ul style="list-style-type: none">・70点以上を合格点としたところ、全ての委員が80点を超える評価であった。評価委員会では高評価とし、評価内容を市長へ伝える。